







■JIS A9511:2017

発泡プラスチック保温材の種類及び記号

	種類	製品記号	特性
ポリエチレンフォーム保温材	保温筒 2種	A-PE-C-2	ポリエチレン又はその共重合体に発泡剤及び添加剤を混合して、板状若しくは筒状に発泡成形したもの、又は板状若しくはシート状に発泡させた後、筒状に加工した保温筒。保温板は、熱伝導率によって1種～3種に区分しており、保温筒は、厚さ収縮率によって1種及び2種に区分している。使用温度の目安は保温板では70℃以下、保温筒では1種が70℃以下、2種が120℃以下である。表面、裏面、または表裏面に面材を接着したのものもある。

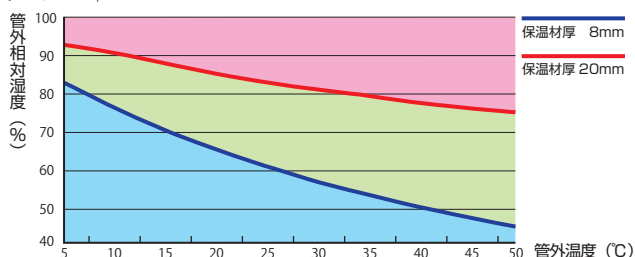
■防露曲線比較

管サイズ：φ6.35～φ19.05

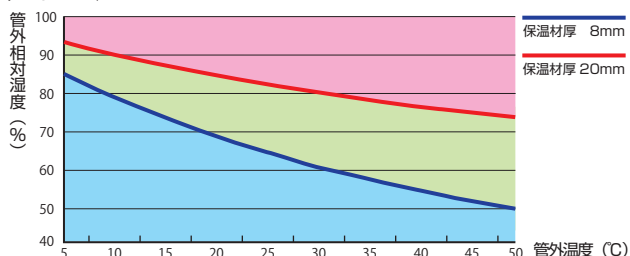
保温材厚 10mm	結露域			非結露域	
保温材厚 20mm	結露域			非結露域	 

管内温度 **-5℃** の場合

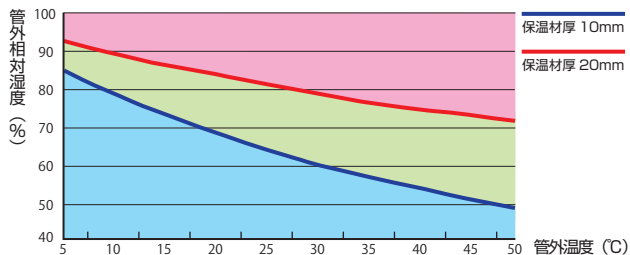
●管サイズ：φ6.35



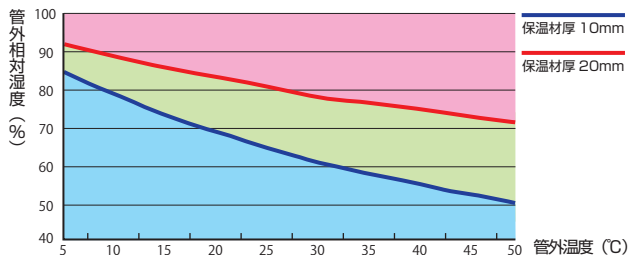
●管サイズ：φ9.52



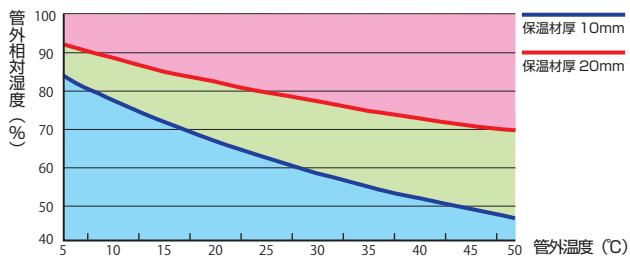
●管サイズ：φ12.7



●管サイズ：φ15.88

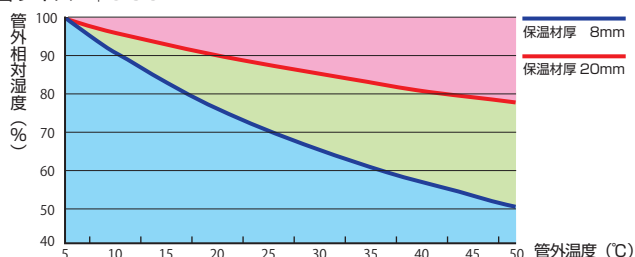


●管サイズ：φ19.05

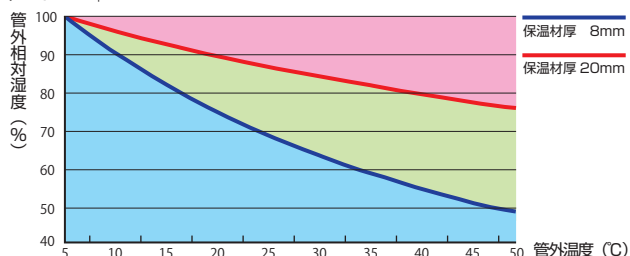


管内温度 **5℃** の場合

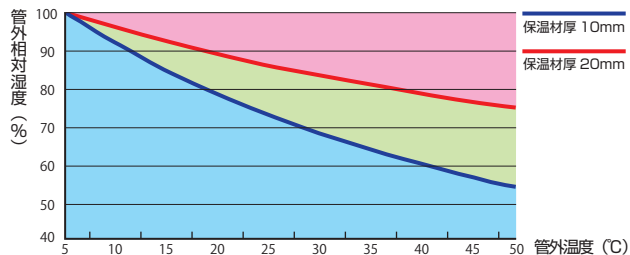
●管サイズ：φ6.35



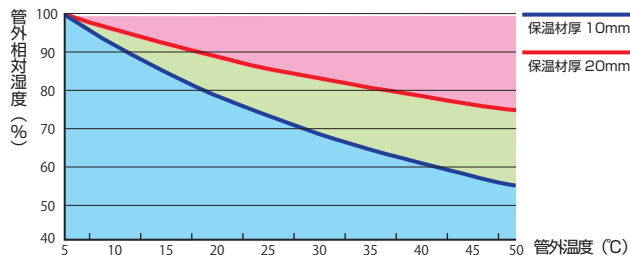
●管サイズ：φ9.52



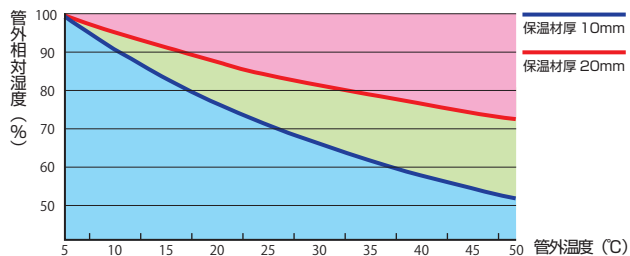
●管サイズ：φ12.7



●管サイズ：φ15.88



●管サイズ：φ19.05



- グラフの線より上の領域で結露します。
- グラフの数値はあくまで参考値であり、機器の設備場所の環境条件や地域によっても変化します。

グラフの計算式条件

- ①結露域算出の計算式は、JIS A 9501:2019（保温保冷工事施工標準）による。
- ②表面熱伝導率は、 $8\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{k})$ とする。
- ③保温材の熱伝導率は、JIS A 9511:2017 では、 $0.043\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{k})$ 以下（平均温度 23°C ）となっているが、実際の実測値の数値とする

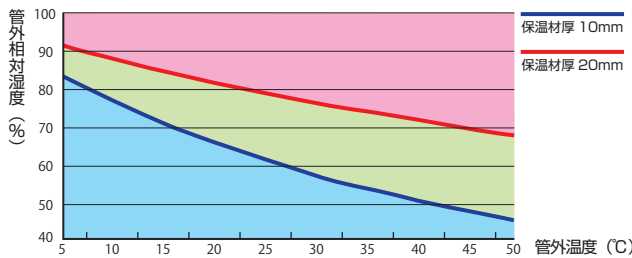
■防露曲線比較

管サイズ： $\phi 22.22 \sim \phi 38.1$

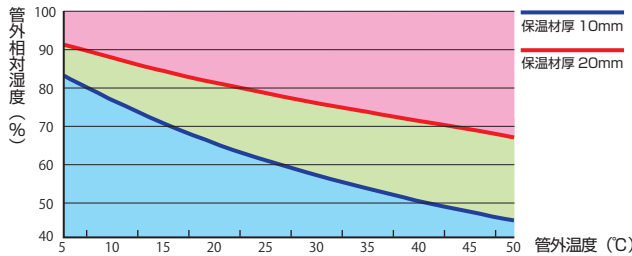
保温材厚 10mm	結露域			非結露域	
保温材厚 20mm	結露域			非結露域	

管内温度 5°C の場合

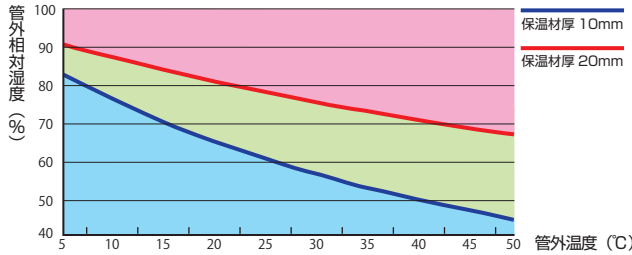
●管サイズ： $\phi 22.22$



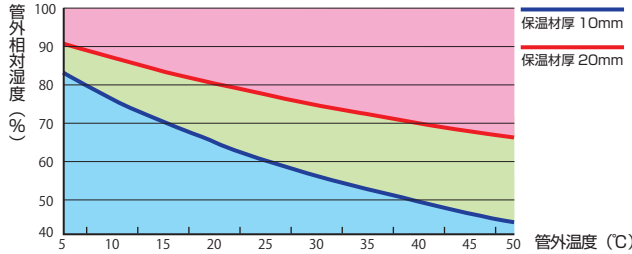
●管サイズ： $\phi 25.4$



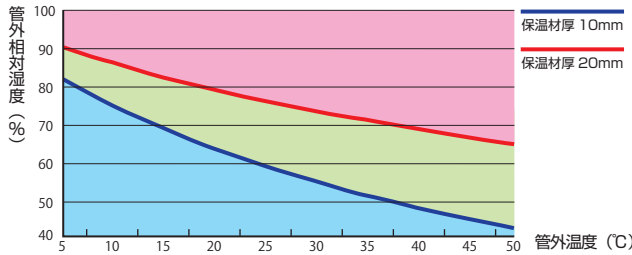
●管サイズ： $\phi 28.58$



●管サイズ： $\phi 31.75$

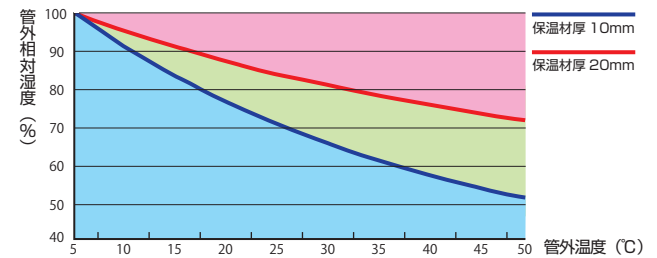


●管サイズ： $\phi 38.1$

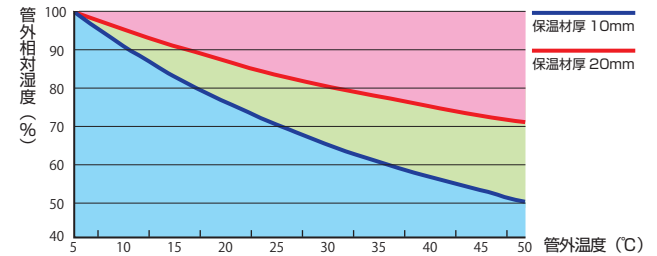


管内温度 5°C の場合

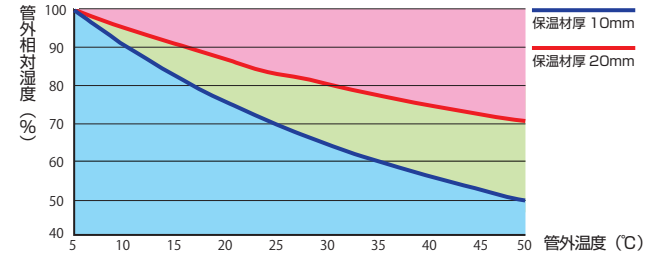
●管サイズ： $\phi 22.22$



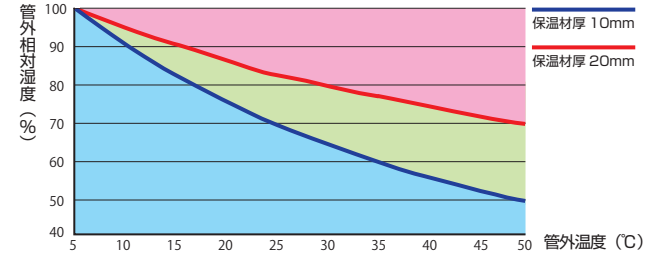
●管サイズ： $\phi 25.4$



●管サイズ： $\phi 28.58$



●管サイズ： $\phi 31.75$



●管サイズ： $\phi 38.1$

